

日本交通心理士会における地区別発表指導のガイドライン

これまでの日本交通心理士会における地区別発表指導に際しては、その指導方法を指導者に一任していたため、指導者のなかから指導方法についての戸惑いの声がありました。この課題の解決と、更なる発表レベル向上をめざし、このたび指導方法ガイドラインを作成しましたので参考にしてください。

以下、指導ガイダンスについて順次説明いたします。

1. 研究プロセスを理解させること

以下の流れで研究を進めるように指導をお願いいたします。

「テーマ選定→データ収集方法（倫理規定を守る）→データ分析→論文作成」

以下に、具体的に順次説明いたします。

（ア）「テーマの選定」について

これまでの発表テーマの傾向をみると、発表者が自身の“オリジナリティ”（過去に行われなかった研究を重視）を意識するあまり、データ収集や分析に過度な負担になるようなテーマを選ぶ発表者が見受けられました。発表者には、必ずしもオリジナルでなくてよいことと、過去の研究の追試研究も可能であることを説明してテーマ選定の指導をしてください。なお、自身の過去の研究の補完や他の発表の課題補完的研究も可能であることを付け加えさせていただきます。

（イ）「データ収集」について

データ収集に当たっては倫理規定遵守の徹底をお願いします。倫理規定は日本心理学会の倫理規程（https://psych.or.jp/publication/rinri_kitei/）や自動車技術会のガイドライン（[自動車技術会「人を対象とする研究倫理ガイドライン」\(jsae.or.jp\)](https://www.jsae.or.jp/kyougi/kyougi_kitei/kyougi_kitei_01.html)）をご参照ください。

特に「研究協力者のインフォームド・コンセント」（調査参加者に研究および実践活動の実施に際して、その活動について十分に説明し、同意を得ること）や「守秘義務、個人のプライバシー保護（調査参加者の個人情報漏洩、肖像権侵害のないこと）」が守られていない発表例が見受けられますのでご指導をよろしくお願いいたします。

データ収集の際のもう一つの問題は、指導を受ける前に十分な仮説や分析方法の検討を行わずにデータを収集してしまうケースです。誤ったアンケート調査や実験で得られたデータからの分析が意味をなさないことや、指導を受けた後に分析方法を見据えたデータ収集をするように指導をお願いいたします。

（ウ）「データの分析」について

ステップアップ講習会での「データ解析」を必ず受講するよう指導してください。

統計学の初歩として、データの性質やサンプリングの考え方を理解したうえで統計検定の選択を行うように指導してください。データの性質に合った正しい分析手法を用いることが大事であることを指摘して指導をお願いいたします。

ご参考のため、以下に指導例を示します。

① **記述統計の基礎**として、「代表値」、「分布」、「4つの尺度」の理解を求める。

「代表値」はグループの「標準」を表す数値であり、一番よく使われるのが平均値であること、ほかに代表値には中央値、最頻値と呼ばれるものがあること、そして、データの分布状態によっては平均値では代表値と言えないことを理解させる。

② **サンプリングの基本的考え方**として、「母集団と標本」、「サンプリングの方法」

の説明を行う。

- ③ **統計検定の基礎**として「有意差」、「帰無仮説」、「検定の手法」の説明をする。そしてデータの種類によって分析手法が異なることを理解させる。

例えば、以下のような例が挙げられます。

1. 名義尺度データ ⇒ 分割表の検定としてカイ二乗検定
2. 実験 ⇒ 群間比較（t 検定、一元配置分散分析）
3. 質問紙+実験 ⇒ 上記に加えて、相関分析
4. 介入 ⇒ 二元配置分散研究（介入前後、実験群+統制群）（交互作用）。統制群が置けない場合には t 検定。

（注釈）おそらく、この中でもっとも難しいのが、介入の二元配置分散分析だと思いますが、そもそも介入研究をするならば避けて通れないし、統制群を置かない研究は、研究として認められない傾向が強いですから、これは何としても乗り越えて頂きたいと思います。しかし、統制群を置けない場合もあるでしょうから、その場合には、それを述べたうえで、t 検定となります。統制群や何らかの比較群を置いた場合には二元配置分散分析を最初から目指してほしいし、それは指導者のサポートを受けてでも行うべきでしょう。ただ、検定の基礎である帰無仮説や有意差について、あまり理解していない方も多いと思いますので、この辺は、二元配置分散分析の修得よりも大切です。

（エ）「論文作成」について

「テンプレート」に倣って論文作成するよう指導してください。章立て、統計分析結果の書き方、図表の書き方、参考資料の書き方などを学会提供の書式を使用して作成するよう指導をお願いします（下記の URL を参照）。

https://www.jatp-web.jp/?page_id=3113

2. 複数回の発表意欲を高める工夫

複数回の発表意欲を持てるように指導してください。現状では多くの発表者は 1 回限りの発表で終わっており、交通心理士としての能力向上の目標が達成できていません（注：「交通心理士として望ましい能力」については下記の URL を参照）。その原因の一つとして、これまでの発表者の意見から、発表に過度の負担がかかり発表後に所謂「燃え尽き症候群」となってしまう方が多いことが見受けられます。複数回の発表意欲を持たせるためには、必ずしも高度な研究を求めることなく、研究の面白さを味わってもらうことが必要ですので、先に 1.（ア）の「テーマ選定」の項でも述べましたが、オリジナルな研究以外に、過去に発表された研究論文の追試研究も可能性であることを説明した上で指導をお願い致します。

https://www.jatp-web.jp/wp-content/themes/jatp/pdf/shikaku-ni-tsuite_202006.pdf

3. 論文作成の期間を守る

提出期限間際での提出や提出後の再修正が毎年繰り返されていることから、提出期限を厳格に守るように指導してください。遅くとも 6 か月前から研究発表の準備に入るよう指導していますが、これまでの例を見ますと提出期限間近までデータ分析に追われる発表者も多く見られます。研究発表までのタイムテーブルを各自作成し、その適切さを吟味・修正するように指導をお願いいたします。

文章改変：2021 年 10 月

作成者：太田博雄